



かわもと みやこ  
川本 ミヤ子 さん

1930年9月15日生まれ

水俣病患者運動の先頭に立ち、チッソ水俣病患者連盟委員長であった故川本輝夫さんの妻。亡き夫の患者支援活動と家族の苦労を伝える。

2002年1月から水俣病資料館の「語り部」となる。  
水俣市月浦在住。

私は、元チッソ水俣病患者連盟の委員長で、患者救済運動の先頭に立って頑張ってきた、今は亡き「川本輝夫」の妻・川本ミヤ子です。平成14年1月より水俣病の語り部になりました。

夫の父は劇症型水俣病で苦しみながら亡くなりました。最後は、精神病院の暗い病室で、泣き喚きながら、息を引き取りました。

さらに、夫が目にしたのは、けいれんで茶碗を取り落としたり、言葉もまともにしゃべれない、靴も一人で履けない胎児性水俣病の子供たちでした。

補償も何もなく、ただ一日を精一杯生きているこの子らを救済するためにと、夫は立ち上がりました。

本当にいろいろなことがありました…。潜在水俣病患者の掘り起こしや、チッソ工場前での座り込み、チッソの社長との交渉や、支援運動に反対する人々からの「嫌がらせ」など、思い起こせば、波乱の人生だったに違いありません。

暴力患者とののしられ、息子たちは「犯罪者の子供」と罵倒され、私たち家族も主人の運動をささえるにあたって苦労を共にしてきました。

しかし、悲惨な公害を訴える夫・輝夫たちの運動がなかったら、声をあげることもしななかった多くの被害者が、救済を受けることもなく、今ごろは「水俣病」という大きな公害が起きたことが、何もなかったように葬り去られていたのでなかろうかと思えます。そうした命をかけた闘いが、水俣病の解決策につながったと、私は主人を誇りに思っています。

主人の気持ちを少しでも後世へ伝えていきたい・・・そんな気持ちで、これからも私は語り続けていきます。

【写真；患者救済運動に奔走している夫】